
僕と彼女のある 1 週間

過去未来

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と彼女のある1週間

【Nコード】

N3433F

【作者名】

過去未来

【あらすじ】

ごく普通のカップル同士の二人だがお互いの気持ちにズレが出始め、、、

<シンイチの日記>

日曜日

今日はカズミさんと2週間ぶりのデートだった。土曜日はカズミさんが残業だったので疲れているだろうから午後からのデートだったので時間がたつのがあつという間だった。特別なことをしたわけではないが2人でいるだけで楽しい時間が流れる感じが最高だね。新宿の高島屋と伊勢丹、丸井のハシゴでブラブラして疲れ果ててマックで夕食(笑)明日も仕事だし、俺は朝一から授業が入っているのでも早めにお別れをした。別れ際にチュウしようとしたが歩き過ぎて疲れている様子だったのでヤメておいた。帰ってからおやすみメールをしたが返事がなかった。もう疲れて寝てしまったのかな。来週も仕事がんばってね。おやすみカズミさん。

<カズミの日記>

日曜日

昨日は友達と朝5時までカラオケをしたから今日は一日寝てようと思ったけどシンイチとの約束があるのを寝る前に思い出してしまった。あーあ、めんどくせえなあ〜会ってても楽しくないし。とりあえずデパートのハシゴしてみたけどなにか買ってくれるわけでもないし、足はパンパンになるし、ロクなことないんだよな。極めつけは夕食はマックって、、あたしをバカにしてんの?いくら学生だからって夕食マックはないでしょう。その後はムカついて口もきかないで帰ってきた。もちろんメールなんかシカトだよ。あーあ、

無駄な一日を過ごした、そろそろ潮時かな、、、

<シンイチの日記>

月曜日

今日は朝一から遅刻ギリギリだった。電車が人身事故で遅れたのが原因だ。この授業は必修だから落とすわけにはいけないのでよかった。夕方まで無事に授業が終わり、夜はコンビニでバイトをして帰った。途中何度かカズミさんにメールをしてみたが返事はなく、、、仕事忙しいのかな。バイトが終わってから電話をしてみたが「今友達といるから後でかけ直すね」と言われてしまった。ちょっと寂しかったけど家に帰って寝る支度などをしながら待っていたが、12時過ぎてもかかってこなかったののでいつの間にか寝てしまった。何かあったのかなあ、、、、

<シンイチの日記>

火曜日

今日も朝一からの授業だったが電車が遅れることなく順調に動いていた。授業も問題は無かった。今日は何もないのでカズミさんと夕食でも食べにいきたいなと思ってメールしてみた。「仕事が遅くなりそうだから、今度の日曜日にしましょう」とのメール。そうだな、仕事が第一だよな。「仕事の邪魔をすみません。頑張ってるね」と一言いれておいた。返事は返ってこなかった。

<シンイチの日記>

水曜日

今日は朝一から体育がある日だった。今はソフトボールをやっているのとでも楽しい。みんなヘナチヨコボールを投げてるので全部ホームランになってしまふ。おかげで「ドカベン」のあだ名がついてしまった。なんだかなあ。今日は夕方からコンビニのバイトが入っていたのでガッツリかせいできた。夜カズミさんにメールをしたが返事は返ってこなかった。なんか一方通行な感じで寂しいな、

<カズミの日記>

木曜日

ゲツもう木曜日、月、火、水って何してたっけ？確か、、、月曜日は友達とお互いの彼氏の悪口で盛り上がったたっけ。盛り上がっている最中にシンイチから電話が来てさらにKYだったような、、、火曜日は岩盤浴でリフレッシュしたかな。昨日は、、、久しぶりの合コンで盛り上がったんだ。一人結構いい感じの人がいたからお持ち帰りされちゃったんだっけ、、、こんなことシンイチにバレたら大変だ。日記の中だけにしておこう。今日は珍しくやさしく接しておくか。

<シンイチの日記>

木曜日

今日は、、、学校はいつも通り。それよりカズミさんがすごくやさしかったのでうれしかった。メールもママに返してくれるし夜電話も2時間も話しちゃった。お互い話し放題だから気にしないけど、、、日曜日に会うのを楽しみにしてくれているから俺も楽しみだなあ。

早く日曜日にならないかなあ。

<シンイチの日記>

金曜日

今日も学校は変わらずだった。バイトも変わらず忙しかった。ただカズミさんがまた音信不通になってしまった(悲)メールをしても夜電話をしても出なくてまた悲しくなってしまった。でも日曜日に会ったから我慢我慢、、仕事お疲れ様。おやすみなさい。

<シンイチの日記>

土曜日

今日は1つしか授業がないがその授業が休講なので休みになってしまった。やることがないので久しぶりにパチンコに行ってみた。土曜日なのでかなり混んでいたがなんとか空いている席に座ってぼけーっと始めた。すると1000円で大当たり!あれよあれよという間にドル箱の山、山、山。その日そのお店で一番の稼ぎ頭になったしまった。そんなこともあるもんだ(汗)カズミさんは相変わらず返信ナシ。明日の時間だけは返信があった。夕方の5時に渋谷になった。せっかく勝ったしちよつと奮発して、、

<カズミの日記>

土曜日、日曜日

また日記をさぼってしまったよ。金曜日・・・変化ナシ。土曜日、休みだったので一日中家でゴロゴロ。以上。ついでに日曜日の日記

を書いてしまいます。シンイチと夕方からデート。またマックで食事をする。私は我慢の限界を迎えて「あんたとはもう付き合ってられない。もっとお金のある人と付き合うわ。じゃあね」と三行半をつきつけて別れる。その帰り道。とあるバーで見知らぬイケメンに誘われそのまま意気投合。その後は、、想像におまかせします。

<そして運命の日曜日>

その日の空は午前中から曇り空で午後3時くらいから我慢できずに泣き出してしまった。シンイチは雨なのでいつもより早めに家を出た。渋谷には4時30分に到着した。シンイチは相手を待たせるのはイケナイ、自分が待つくらいがちょうどいいんだという気持ちでいるのでこれ位のウェイトはどうってことなかった。

一方カズミは4時30分にはまだ家にいた。まだ服が決まらずにモタモタしていた。「シンイチと会うんだからGパンにTシャツでいいか」と半ばヤケになって家を出て行った。渋谷までは50分かかった。

5時20分改札を出て慌てて走る演技に切り替えてカズミが息を切らして（フリ）やってきた。

「遅くなってごめんね〜」

「大丈夫だよ、そんなに待ってないから」

「すごい雨だね。早くお店に入ろうよ」

カズミはこの後マックに行くに違いないと思い左に歩きだした。

「そつちじゃないよ」

「えっ、あっそう。ごめんね」

マツクとは反対方向だけど、カズミは不思議に思いながらシンイチの後について行った。

傘と人ごみを掻き分けながら15分ほど歩くとシンイチは一軒の店の入口に立った。

「ここ結構雰囲気いいと思うんだけどどうかな」

古い中世風の建物はこの場所だけタイムスリップしたような錯覚を起こしそうだった。

「そうね、いいんじゃない」

シンイチにはなかなかいい選択ね。カズミは少し感心していた。

店の中に入ると日曜の夕方なのに人が少なかった。しかもテーブルの明かりがローソクだけだった。なんだか不気味でさえあるこの雰囲気二人は飲み込まれそうになった。入口の近くに案内された二人は黙ってメニューを見ていた。メニューはごく普通のラインナップであった。

「何にする」

「じゃあ、このワインにしようかな、食事はこれで」

「OK、俺も同じでいくよ」

店内が空いているせいか、ワインも食事も出てくるスピードが速かった。二人は黙々と食事をしていた。しばらくするとシンイチが話し始めた。

「カズミさんこのごろ忙しくて大変でしょう。日頃の疲れをこれで見取ってもらおうと思ってプレゼントを用意したんだ」

そう言うとシンイチは大きなプレゼントの入った紙袋を取り出してカズミに渡した。

「えっ、これ何？」

「いいから開けてみてよ」

「うっうん」

カズミはなぜかシンイチの言うがままに必死になってその袋を開けた。中から高級そうなバックがでてきた。

「うっこれ、、、」

「カズミさんが前から欲しがってたブランド物のバックだよ」

「うれしい。ありがとう、シンイチくん、、、私、わたし、、、」

カズミは言葉にならずに泣いてしまった。

「なんで泣いてるの？欲しかったものでしょう？」

「嬉しくて思わず泣いちゃった」

「ホント？よかったあ、よろこんでくれて」

カズミは別れようとしたことをすっかり忘れてしまった。完全にモ
ノにつられてしまった。

「シンイチくん大好きだよ」

「僕もカズミさんのこと好きだよ」

この日の夜は二人は久しぶりに大人の夜を過ごしたのであった。

この日で別れようとしたカズミ、それに気づかずにカズミのために
プレゼントを買ったシンイチ。別れそうであと一歩のところまで踏み
とどまった二人。こんなカップルが世の中にはたくさんいるのでは
ないですか？

ではまた（ 誰？）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3433f/>

僕と彼女のある1週間

2010年10月17日03時04分発行